

山崎 和代 ◯やまさき かずよ
 社会福祉法人西宮市社会福祉事業団
 訪問看護課 課長
 西宮市訪問看護センター 管理者
 認定看護管理者

西宮市訪問看護センター(兵庫県西宮市)は3カ所のサテライト事業を展開するステーション。山崎和代さんに、管理者としての日々の思い・考えを語っていただきます。

4

コロナ禍の 訪問看護ステーションの役割

昨年12月初めに、本市の新型コロナウイルス感染対策室から当センターに「コロナの感染者で入院できず自宅待機となった人が増えている。保健所が手一杯になっているので、自宅で待機している人への体調確認などを協力してほしい」という相談がありました。当センターは、どんな依頼も断らない方針を掲げていますが、今回はその業務に当たる人員を確保できないため断りました。また、県内のほかのステーションでは、ヘルパーの代替で訪問看護の依頼があったという話を聞きました。

◆スタッフ・利用者への対応

当センターでは、第1波以降、スタッフが安心して働けるように事業所全体の方針や利用者ごとの対応方法をはじめ、コロナに関する最新情報・各種ガイドライン・法人の支援制度などの情報を電子カルテに集約し、スタッフ誰もがそれを閲覧・活用できるようにしています。第1波のころは未知の感染症への対応や緊急事態宣言発令による生活への影響に不安を抱えるスタッフが多かったですが、今ではそういった不安を持つ人は少なく、増え続ける利用者への訪問看護で駆け回っています。

また、1995年の阪神淡路大震災での経験から、訪問が困難な状況に備えて利用者や家族のセルフ

ケア能力の向上に向けた支援を行ってきました。それにより、感染を懸念して訪問回数や時間を減らしても問題はありません。



illustration TOKUDOME

◆利用者増加の背景

コロナ禍において病院等での面会制限が続いている影響から、特に退院当日の訪問看護(退院支援指導加算)の依頼が増えています。退院支援指導加算は新規利用者のうち月平均23%で算定していましたが、昨年4~11月の間は35~45%と平均を上回る月が多くありました。一方、退院時共同指導加算は1カ月間で50回となり、前年度の同期間に比べて41回減少しました。これらから、重症患者の退院が増加しているにもかかわらず、在宅療養移行支援が不十分なことがわかります。必要なケアや本人の意向などがわからずに退院となっており、在宅サービスを提供する事業所等に負担がかかっています。

◆入院できないコロナ感染者への対応準備

今後、症状があっても入院できないコロナ陽性者が増えることを想定し、当センターは市に対して、自宅療養者への訪問スキームの構築のために、自治体・保健所・医師会・介護事業所等との関係者会議の開催を要望しました。その会議では、介護保険を利用しない訪問看護の依頼手順や多職種との情報共有の方法、訪問・電話相談の報酬について話し合いをしたいと考えています。また、療養者の生活支援と状態観察を行う入所施設を早急に整えてほしいことも伝えました。

コロナ禍においても、通常業務を行うことが私たちに求められています。訪問看護の本来の機能を発揮するためには、管理者が必要な調整を行うことが重要です。